

筆者のものの見方を生かして、『鳥獣戯画』を解説しよう**～6-2『鳥獣戯画』解説絵巻を高畑勲さんに届けよう～**

中心学習材 『鳥獣戯画』を読む』（光村図書6年）

<育てたい主となる能力>

◎目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかんた（読ウ）

<単元を貫く言語活動>

◎絵を解説する。

1 子どもと単元について

子どもたちは、これまでの「読むこと」の説明的な文章の学習では、書かれている内容をとらえるために段落に着目したり、構成や要旨を読み取ったりする学習を積み重ねてきた。「生き物はつながりの中に」では、要旨をとらえ、筆者の考えに対し自分の知識や経験、読書体験に引き寄せて書きまとめることにより、自分の考えを明確にして読む力を高めてきている。更に、それぞれが書きまとめた文章を交流して助言し合うことにより、互いの考えの共通点や相違点を明らかにし、考えを広げたり深めたりすることができるようになってきている。

中心学習材『鳥獣戯画』を読むは、絵に対する解説と解釈、評価が述べられた評論文としての特徴をもっている。筆者のものの見方（解釈・評価）とその対象が明確に表されているため、筆者のものの見方をとらえやすく、自分の見方と比較することができる学習材である。また、非連続型テキスト（絵）と連続型テキスト（文章）を照らし合わせて読むという読み方を身に付けたり、体言止めや語りかけるような表現など、ものの見方や感じ方を伝えるための筆者の工夫を学んだりすることにも適した学習材である。

指導に当たっては、次の三つを大切にす。一つ目は、導入を工夫することである。導入時に図書ボランティアによるお話を設定し、平安時代の「絵巻物」を紹介してもらうことで、「絵巻物」への興味をもたせる。また、単元のゴールを「6-2『鳥獣戯画』解説絵巻を高畑勲さんに届けよう」と設定することで、「絵を解説する」ことへの関心を高め、意欲的に学習に取り組むことができるようにしたい。二つ目は、筆者の着眼点・評価の仕方を読み取らせることである。筆者が絵巻物の「絵のどの部分」を取り上げ、「何に着目し」「どう評価しているか」、つまり筆者の着眼点・評価の仕方を読み取ることで、絵と文章を対照しながら効果的に読む方法を学ぶことができると考える。三つ目は、筆者になりきって『鳥獣戯画』の五つの場面を解説させることである。筆者の着眼点・評価語彙・表現の仕方（書き出しや文末の工夫・言い回しの工夫・言葉の使い方の工夫）を生かして解説することで、筆者のものの見方を読者へ伝えるための工夫と効果について更に深く理解することができるものとする。

2 単元の指導目標

○絵巻物に興味をもち、絵巻物について解説する文章を読もうとする。【関心・意欲・態度】

○絵と文章を照らし合わせたり、絵を解説したりしながら、筆者の着眼点や表現の工夫を読み取ることができる。

【読むこと ウ】

○語句と語句とがどのように関連し合っているのかを理解することができる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(オ)】

3 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
○絵巻物や「絵を解説する」ことに興味をもち、自分の選んだ場面の解説に生かすために、筆者の着眼点や評価語彙・表現の工夫について読もうとしている。	○筆者の着眼点と評価の仕方、表現の工夫を生かして筆者になりきって解説することで、筆者のものの見方を読者に伝えるための工夫と効果について理解している。	○文末表現や助詞の使い方など語句に着目して読み、語句と語句との関係を理解している。

4 学習指導計画(全5時間)

【主な段階】

【主な学習活動】

【主な活用】

第1次

単元のねらいを知り、学習の見通しをもつ。

(1時間)

- ① 「絵巻物」や「絵を解説する」ことについて関心を持ち、今後の学習の見通しをもつ。

<評価>

- ① 平安時代の絵巻物や「絵を解説する」ことに関心を持ち、ねらいと「6-2『鳥獣戯画』解説絵巻を高畑勲さんに届けよう」という単元のゴールを理解して学習の見通しをもとうとしている。

《ワークシート・発言》

第2次

『鳥獣戯画』を読む」を読み、筆者の着眼点や表現の工夫をとらえる。

(2時間)

- ② 絵と文章を照らし合わせながら『鳥獣戯画』を読む」を読み、筆者のものの見方をとらえる。
- ③ 自分の見方を読者に伝えるための筆者の表現や構成の工夫を読み取る。

<評価>

- ② 筆者が絵の描き方や絵巻物について、どんな感じ方や評価をしているか、絵と文章を照らし合わせながら読み取っている。

《ワークシート・発言》

- ③ 考えを効果的に伝えるための表現や構成の工夫について考えている。《ワークシート・発言》

第3次

筆者のものの見方を生かして「鳥獣戯画」を解説する。

(2時間)

- ④ 自分の選んだ場面について、筆者の着眼点・評価語彙・表現の工夫を生かして絵を解説する。(本時)
- ⑤ 完成させた「6-2『鳥獣戯画』解説絵巻」を交流し単元を振り返る。

<評価>

- ④ 自分が選んだ場面を筆者の着眼点・評価語彙・表現の工夫を生かして筆者になりきって解説している。

《ワークシート・交流の様子》

- ⑤ 完成させた解説絵巻を読み合い、改めて筆者の着眼点・評価の仕方・表現の工夫のすばらしさに気づき、筆者のものの見方を読者へ伝えるための工夫と効果について理解している。

《ワークシート・交流》

第2次で習得した絵を解説するための着眼点・評価語彙・表現の工夫を生かして好きな場面を解説する。

【国語科活用場面】

- 「この絵、わたしはこう見る」で表現の仕方を工夫して、絵の解説文を書く。
- 物語や小説、映画、演劇などの作品の見どころやすばらしさを伝える文章を読み、筆者の評価が表れている表現を見付ける。

次単元

表現の仕方を工夫して、絵の解説文を書こう。～「城南ギャラリー」の絵画コメンテーターになろう～

課外

完成させた「6-2『鳥獣戯画』解説絵巻」を高畑勲さんに送る。

5 本時の指導

(1)ねらい

筆者の着眼点・評価語彙・表現の工夫を生かして、筆者になりきって『鳥獣戯画』を解説することができる。

(2)基礎的・基本的な知識・技能を活用する言語活動

前時までの学習では、絵と文章を照らし合わせながら読み、筆者の着眼点や評価語彙、表現の仕方（書き出しや文末の工夫・言い回しの工夫・言葉の使い方の工夫）をとらえてきた。本時では、その知識・技能を活用して、『鳥獣戯画』の自分の好きな場面を筆者の着眼点や評価語彙、表現の仕方を生かして筆者になりきって解説する。

(3)展開

学習活動	学習内容	指導の手立てと評価
<p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「6-2『鳥獣戯画』解説絵巻」を筆者になりきって解説しよう。</p> </div>		<p>○学習計画に沿ってグループごとに学習課題の確認を行い、単元における本時の位置付けを確かめる。</p> <p>○児童が主体的に学習を進めることができるように、学習活動の流れと時間配分について確かめる。</p>
<p>2 学習課題を解決する。</p> <p>(1)筆者の着眼点や評価語彙、表現の仕方を生かして自分の選んだ場面の絵を解説する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ場面を選んだ者同士で作っているグループで解説したい部分について確認する。 <p>(2)グループで各自解説を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の着眼点・評価語彙・表現の工夫を生かして解説しているか交流し合う。 	<p>○解説に生かす観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の着眼点 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・動物の体の線・表情・動き・体のパーツ（口・耳・背中・目・足・顔・毛・手・骨格）・絵全体・筆遣い・背景 </div> ・筆者の評価語彙集 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>激しい・いい・うまい・おかしい・おもしろい・くわしい・すごい・すばらしい・楽しい・人間くさい・分かりやすい・上手だ・見事だ・自然だ・自由闊達だ・自由だ・すてきだ・正確だ・大切だ・モダンだ など</p> </div> ・筆者の表現の仕方 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・動きを実況中継する。 ・「～ごらん」「～だね」「～かな」等の文末表現 ・「どうだい」「そう、きっと」「たいしたものだ」の言い回しなど </div> 	<p>○水遊びの場面・弓矢の場面・けんかの場面・相撲の場面・法会の場面の五つのグループに別れ、各自が特に興味を持った部分、おもしろいと思った部分などを出し合いながら自分の解説した部分を確認し、活動に取りかかるようにする。</p> <p>○筆者の着眼点や評価語彙、表現の仕方を生かしながら解説する。</p> <p>○一つの着眼点についての解説は200字以内にまとめることができるようにする。</p> <p>○互いの解説を聞き合い、着眼点・評価語彙・表現の仕方などの共通点や相違点を見付けることで筆者になりきって解説しているか、互いに交流できるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>〈評価〉自分が選んだ場面を筆者の着眼点・評価の仕方・表現の工夫を生かしながら筆者になりきって、解説している。</p> <p style="text-align: right;">【ワークシート・ノート】</p> </div>
<p>3 学習を振り返る。</p> <p>(1) 自己評価する。</p> <p>(2) 次時の確認をする。</p>		<p>○筆者の着眼点・評価語彙・表現の工夫を生かして筆者になりきって解説することができたか、交流して感じたことなどを記述できるようにする。</p> <p>○振り返りの観点に沿って記述している児童を指名し、本時の学習の価値付けを図る。</p> <p>○次時は「6-2『鳥獣戯画』解説絵巻」の全体を交流することを確かめ、意欲や見通しをもたせるようにする。</p>